

令和2年度松本市スポーツ推進審議会会議録

1 日時

令和3年3月24日（水） 午後1時30分から2時40分

2 場所

松本市総合体育館 大会議室

3 次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

ア 協議事項

(ア) 副会長の選出について

(イ) 松本市スポーツ推進計画の評価・検証について

(ウ) 次期松本市スポーツ推進計画策定スケジュールについて

(4) その他

(5) 閉会

4 出席者

(1) 委員

吉田勝光会長

中原信一副会長

安藤久治委員、大池俊嗣委員、笠井幸司委員、原義美委員、青木雅晃委員

(2) 事務局

スポーツ推進課：百瀬誠課長補佐、公保靖彦課長補佐、山本茂課長補佐、真田俊晴係長

5 議事録

(山本茂課長補佐)

ただ今から、令和2年度のスポーツ推進審議会を開会いたします。

本日、司会を務めます、事務局のスポーツ推進課山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本審議会は、松本市情報公開条例第35条の規定により、原則として公開するものといたします。

本日の審議会でございますが、宮坂委員、川上委員、小林委員、小松委員が都合により欠席となっております。

また、皆様には、令和2年3月にご就任いただきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、会議を開催することができず、委嘱状もお渡しできないままとなっておりますこと、お詫びいたします。本日、机の上に委嘱状をご用意しておりますので、お納めいただきますようお願いいたします。

関連いたしまして、就任時に委員の皆様の互選で会長の選出をお願いすべきところでしたが、同様の理由により、お諮りできない状況でありましたので、審議会のスムーズな運営のため、引き続き吉田委員に会長の任をお願いしております。この点につきまして、改めて皆様のご承認をいただけますでしょうか。

【委員からの異議なし】

それでは、令和2年度松本市スポーツ推進審議会の開会にあたり、吉田会長からごあいさつをお願いいたします。

(吉田勝光会長)

こんにちは。一部の方には、何年か前にお会いして、一部の方には今日初めてお会いをするということでございますが、会長についてのご承認ありがとうございます。新型コロナウイルスの関係で、開催が難しい状況ではあったのですが、何とか事務局のご尽力により開催することができました。

私の方は、これまで勤めておりました桐蔭横浜大学を定年退職しまして、松本の方に帰って参りました。帰って参りまして、できるだけスポーツに関わりたいなと思ひまして、地元にあります、「クラブはたっこ」という総合型地域スポーツクラブに関わっています。また、こちらから見ると丘陵地になっている中波田のところを縦横無尽に歩き回っています。また、歩きながら農作物を見て、それを見ながら自分でも野菜づくりをしている状況です。それから、こちらに帰ってきました、今年一つ良いことがありました。私が勤めていた桐蔭横浜大学サッカー部の選手だった鈴木国友という選手が、最初、湘南ベルマーレに入りましたけれども、北九州を経て、今度は松本山雅に移籍してきました。私も授業中にサッカー部のメンバーに対して、松本山雅に入ったら、最初に入った選手はもう全面的に応援するからと言っていたところ、鈴木国友君が来てくれて非常に嬉しく思いました。あまり良い関係ではなかったのですが、それでも応援するという手紙を書きました。読んでくれたかどうかはわかりませんが、彼が松本山雅に所属したことで、松本市のスポーツに何か寄与してくれると非常にありがたいなと思っております。

今日は、スポーツ推進計画、代わられた委員の方もいらっしゃいますが、評価等含めて今後のことについて検討していただく審議会になるかと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(山本茂課長補佐)

ありがとうございます。

1点ご報告の方が遅れましたが、スポーツ推進審議会の事務局であります、松本市の文化スポーツ部長の村山、文化スポーツ部スポーツ推進課長の大島が、本来であれば出席するところですが、他の公務の関係で本日欠席させていただいております。

それでは、議題に移ります。

本審議会条例第6条第1項の規定に基づきまして、吉田会長にお願いいたします。吉田会長よろしくお願ひします。

(吉田勝光会長)

まず、協議事項ア副会長の選出について、新型コロナウイルス感染症拡大により選出の機会がなかったことで空席になっております。

本審議会条例第5条に基づき委員の互選で選出したいと思ひますが、引き受けいただける方またはご推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようでしたら事務局にお任せするという事でよろしいでしょうか。

【委員からの異議なし】

それでは、事務局から案をお願いしたいと思ひます。

(公保靖彦課長補佐)

事務局を勤めております、スポーツ推進課の公保と申します。よろしくお願いいたします。

本審議会の設置時から、亡くなられた市川氏が旧松本体育協会、現松本市スポーツ協会からの選出委員として副会長を務めていただいたということや、松本市スポーツ協会が、市内のスポーツ推進の全般を担う団体であるという点からも、引き続き同協会選出の中原委員にお願いしてはいかがでしょうか。

(吉田勝光会長)

ただいま、中原委員に副会長をお願いしたいとの提案がありましたが、いかがでしょうか。

【委員からの異議なし】

ご異議なしとのことですので、中原委員に副会長にご就任いただきたいと思います。

(中原信一副会長)

ただいまご紹介いただきました、中原でございます。

前任の市川氏がお亡くなりになり、その後引き受けております。松本市スポーツ協会の副会長としておりまして、スポーツ推進という面で協力していくという立場でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(吉田勝光会長)

次に、協議事項イに移ります。

松本市スポーツ推進計画の評価・検証についてですが、まず資料1の松本市スポーツ推進計画に掲げられている基本的に数値目標の状況について、事務局からご説明をお願いします。

(公保靖彦課長補佐)

それでは資料1をご覧ください。

グラフから分かるように、年間体育施設利用者は平成25年度から減少傾向ということが言えます。その理由は、各年度で改修工事が行われているということもありますし、やはり、運動をする方が減っているのではないかと考えております。スポーツ教室参加者数は、平成27年度をピークに減少傾向ということがわかります。継続的なスポーツ活動という部分では、昨年は新型コロナウイルスの影響等で少なかったということがありますし、体操やウォーキング等の個人的に運動をするという方が増えているのではないかと、また、スポーツを行うのみではなく、見る・支えるスポーツというものも増えてきているのではないかと考えております。

事前にいただいたご意見として、まず宮坂委員から、市民スポーツを広げるよう配慮していただいていることに感謝している。新型コロナウイルスの対応で学校も含めて施設利用について令和2年度は大きく状況が変わった。令和3年度以降、感染症対策等の条件付きでできることは増えているが、コロナ以前の状況に戻るにはまだ時間がかかるのではないと思う。ゆえに計画の推進状況、最終目標など、柔軟に見直していただくことも必要と感じている。また、予算の使い方も、感染対策や外でのスポーツ、密にならないスポーツなどできるところに振り向けることも必要かもしれないとご意見をいただいております。

小松委員から、特に変化が見られていない。その中でどこにポイントを推進していくか検討が必要ではないかというご意見をいただいております。

大池委員から、年間体育施設利用者数は観る人の数に入っているのか、実際に行った人の数か。25年度の調査から計画目標達成のために、どのようなところにどのように力を入れてきたかということ。成果と課題を踏まえ、残された年度で計画目標達成に向けてどのような取り組みをしていこうとしているかのご意見をいただきました。

事前にいただいたご質問等で回答できる部分については、続けて事務局からお答えします。

年間体育施設利用者数に観る人の数が入っているのかという質問については、利用者数には、観る人の数も含まれています。

平成25年度から計画目標達成のためにどのようなことに力を入れてきたかという質問については、スポーツを体験してもらう機会として「ファミリースポーツカーニバル」を実施したり、スポーツに触れていただく機会として「松本山雅のパブリックビューイング」を開催したり、子どもたちのスポーツ体験として「都市間交流」を実施したり多くのイベント等で市民がスポーツに接する機会を創出しています。また、年間を通じてスポーツ施設を点検し、急を要する修繕や改修が必要なスポーツ施設を優先に環境整備を行いました。また、スポーツ施設の利用申し込みをインターネットでできるようにしたり、運動機会継続のため、直営のスポーツ教室を継続実施するという取り組みをしております。

計画目標達成に向けた、今後どのような取り組み予定があるかという質問については、来年度から、市内中学校の4種の部活（野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール）に対し、プロスポーツ選手の出前コーチングを実施し、それぞれのスポーツに興味を持ち、「する」だけでなく「見る」スポーツの楽しさを知ってもらい、子どものスポーツ活動の推進を図ってまいります。また、本年度策定した「松本市個別施設計画」に基づき、必要なスポーツ施設の修繕等を計画的に実施して、スポーツ活動を推進し、競技人口の拡大へとつなげ、さらに新規事業として、年10回の障がい者と健常者が一緒にスポーツを楽しめる場の提供を実施し、継続的なスポーツ活動や参加者数増加を見込んでおります。

(吉田勝光会長)

ご意見いただいた大池さんはどうですか。

(大池俊嗣委員)

これだけ市民に協力してもらい業務時間をかけた調査を、どう生かしていくかが大事だと思います。市民がどのようなものを望んでいるかということ、どのように政策に反映してきたかということがあまり見えにくいと思います。

(吉田勝光会長)

他にはよろしいでしょうか。

【委員からの意見・質問なし】

次に、資料2のスポーツに関する市民アンケート集計結果について、事務局から説明をお願いします。

(公保靖彦課長補佐)

それでは資料2をご覧ください。

18歳以上で市民から無作為に抽出いたしまして2000人に対してアンケートを送付し、回収率が36.65%でした。全体的にスポーツ推進計画策定前の調査との比較ではあまり変化がない印象を受けません。特徴的なところをあげますと、障害者スポーツの認知度が若干高くなっており、障害者スポーツの種目も知っているものが増えているというデータとなりました。オリンピック・パラリンピックが行われるため、障害者スポーツにスポットを当てるには、非常に良いタイミングであると考えております。

皆様から事前にいただいたご意見としまして、小松委員から、全体が大きく変化がない。バリアフリーの認識は向上している印象。市としては、この市民意識の高まりに対してどのような施策を打っていくのか示した方が良いのではないかと。また、市民は何にバリアフリーが必要と感じているのか具体的に知った方が良いと感じる。体育施設は市街地でない。アクセシブルとは言えないことがバリアであることは確かである。また、健康志向の高まりは一定数居る。個々の世代層を分析できないか。また、この意識の高まりを実効性のあるものに変えるような仕組みはあるのか。実施時間を見ると、午前もしくは午後集中しており、働いていない人の像が浮かび上がる。生涯スポーツのためには、全世代層での活動がおおむね同じぐらいの割合で見込めれば良いと考えるが、その点、どう判断し推進していくか。時間にゆとりがなく金銭的な理由などを含めると、施設利用料などは因子の一つかもしれない。市民にとっては十分減免されていると思うが、施設利用によって何かポイントがたまって還元される仕組みになると良いのかもしれない。年間コストから行くと、スポーツ活動に対し、1か月あたり3000円未満が予算のようであるから、1年健康活動をすると、協賛企業から1000~3000円相当の品物がもらえるなどができることの良いような気もする。駅の近くに仕事帰りに寄れる体育施設があれば、多様な方に利用していただけたらと思うとのご意見をいただきました。

大池委員からは、アンケート結果をどのように生かしてきたか。今後、アンケートに現れた市民の期待に応え、より積極的にスポーツを行うためにはどのようにしていくか。アンケートをどのように活用していこうとしているか。多様なニーズが見えるアンケートを具体的施策として挙げさせていくのは難しいところがあると思う、とのご意見をいただきました。

原委員からは、行っているスポーツに多くの方が「ウォーキング」「ランニング」を挙げている。運動する目的も、「健康や体力づくり」「楽しみやストレス解消」「運動不足の解消」と気軽に出来て習慣化しやすいものとして選ばれている。年間スポーツにかかる費用も3万円程が6割を超える。友人や家族の勧めであったり、地域のイベントや行事に参加するのがきっかけとなっている方も多く、コミュニティづくりとして使いやすい。一方で、コロナ禍で大規模な人を集めることが難しい状況はしばらく続くと考えられ、スマホ等のアプリを使ったイベント等も今後盛んになっていくと思われる。松本市としてもお絵描 Running、Walking やオンライン大会等のオンラインイベントを発信できないか。また、障害者スポーツについて知ってもらうことの難しさ、さらには参加することの難しさはある。パラリンピック放送への過剰な期待はいけませんが、一つのチャンスとして捉えていけると良いと考える。障害者ではなく、アスリートである事、普通の人では持ちえぬ領域の能力を備えた存在である事が伝わって欲しいとのご意見をいただきました。

事前のご質問への回答としまして、市民の期待や多様なニーズがアンケートに現れている中、アンケート結果をどのように活用していくかということにつきましては、すべてに応えることは不可能ですが、要望の多いことや実施可能なものについては検討していきたいと考えております。施設関係は、将来を見据え、住民のニーズに沿った実現が可能（実現が有効）なスポーツ施設の整備に努め、障害者と一緒にスポーツをしたことがある割合が増えているため、少しずつではありますが、世の中の動きとともに意見としていただいている健常者側の理解や交流についてパラスポーツに関する場の共有や機会の提供、情報発信をしていくことを進める体制を整えていくことを考えております。

アプリを使用したイベント等で発信できないかという質問につきましては、昨年度から株式会社アールビーズと提携を結んでおり、その中でアプリを利用したイベントを発信してきております。

(吉田勝光会長)

以上の説明について何かご意見等ありますでしょうか。

(青木雅晃委員)

昨年度、我々のブラインドサッカーチームが発足設立しました。一番はパラスポーツの普及が主眼となっていて、実際にいろいろな方に体験していただく活動も行っていきますので、ぜひご活用ください。

(吉田勝光会長)

私も実際にプレーをしたことがあります、難しくて上手くできませんでした。全日本の選手の反応力はすごいなと思いました。

それから、総合型地域スポーツクラブの関係の調査結果で、平成 25 年度から知ってる人が少なくなっています。もっと周知をしなければならないと思います。

他は何かいかがでしょうか。

(安藤久治委員)

私どものスポーツ推進委員で来年度から、総合型地域スポーツクラブについて、改めて学習をしようと考えているところです。

(大池俊嗣委員)

今回のアンケートについて、これだけの労力をかけているのだから、ただ数字だけ出して終わりではなく、せっかく市民から得たデータですから、しっかり活用して市民へ返していくために、どう生かしていくのかを考えなければならないと思います。これから市のスポーツ課としてどうしていくのかというところを、ぜひ計画等に組み入れてほしいと思います。

(中原信一副会長)

障害者スポーツについては、松本市は大会が少ない印象があります。障害者の方は、スポーツに親しむ機会が少ないため、養護学校等で教えて広めていく必要があると思います。また、松本市と比較して長野市は多くの大会が開催されているように感じます。やはり、大会に出るということも必要だと思います。そういう機会を与えるということも、スポーツ推進の中で、大事なことだと感じております。

(吉田勝光会長)

次に、資料 3 の次期松本市スポーツ推進計画策定スケジュールについて、事務局から報告をお願いします。

(公保靖彦課長補佐)

今のスポーツ推進計画の期間が令和 6 年度で満了します。令和 5 年度から調査等に入り、令和 6 年度に骨子を作成し、様々な方面にご審議いただく期間を設け、令和 7 年度の施行というスケジュールを考えております。令和 3、4 年度は、おそらく年に 1 回の審議会を開催となるかと思いますが、その際に様々なご意見を持ち寄っていただいて、それを次期計画に活かしていきたいと思っております。

事前にいただいたご意見としまして、小松委員から、2028 年に開催される国体について、各競技団体では強化が始まっていると思いますが、市としての取り組みはどうか、また、全国障害者スポーツ大会も開催され、選手発掘から手を打たなければならない現状があるが、松本市としての考えはどうかとご意見をいただいております。

原委員から、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今後のスポーツ環境は大きく変化していくと思う。スポーツの括りにとらわれない、身体を動かす場所・きっかけづくりを作っていきたい。とても乱暴な

言い方ではあるが、外で身体動かしたら元気になります程度のコンセプトでも良いのかもしれないとのご意見をいただきました。

この中で、国体開催に向け、市の取り組みはどうかということですが、1年延期したということでも、国、県の国体に対する動きが若干遅れ気味になっております。松本市としましては開会式が行われ、陸上、バレー、サッカー、なぎなた、軟式野球、自転車が実施される予定です。県に対しまして、選手をなるべく良い環境・状況で迎えるために、施設の改修や補助金等のお願いをしております。昭和53年に行われた時は、何もない状態から施設や道路すべてを、国体のために新設・整備しましたが、現在はある程度の施設が揃っている状況でありますので、以前のような大きな変化というものはないと考えておりますが、より松本市が良い状況で国体及び全障スポを受け入れられるよう、県に協力をお願いしているところでございます。

また、全障スポについて、選手発掘から手を打たなければいけない状況で、市としての考えでございますが、これは長野県としても、懸案事項であると、県の担当者から聞いています。松本市としては、障害福祉課が長野県大会・全障スポの選手の窓口となっており、昔からの制度的な関係で福祉事務所が担当窓口となっていることで、大きく変えることは現状難しいと考えております。選手発掘については、来年度から当課でパラスポーツを体験できる事業を計画しており、その中で選手発掘を行ってまいります。具体的な競技については、長野県障害者スポーツ協会との連携を深め、体験会等で探っていくことになると思います。長野県障害者スポーツ協会では、特別支援学校・学級、松本市（学校指導課）では特別支援学級に対してアプローチをかけていく方向性となっており、選手発掘後の練習等の継続には支える側の理解も深める必要があります。いずれにしても、長野県障害者スポーツ協会等、関係団体との連携を深めて、2028年に間に合うよう何かしら動きがあるということをお伝えします。

（吉田勝光会長）

障害者スポーツについては、一般のスポーツとは違い、無理に勧めることができず、その人にとってスポーツが人生を支えるものになれば良いが、そうならない場合もあり、無理やり選手に引っ張るのは難しいので、そういう点ではやりにくいこともあると思います。

原委員から事前意見が出されていましたが、原委員いかがでしょうか。

（原義美委員）

自分たちもイベントを開催する際に一番難しいと思うことは、知ってもらうこと、周知することです。広報やチラシを出しても反応がなく、結局一番集まるのは友人の紹介だったりします。

スカイパークは以前に比べて、遊びを目的とした親子連れや、他の目的で来ている人がたくさん見受けられる感じがします。屋外の方が安全ということもありますが、スポーツ推進の一番の目的は健康増進だと思っているので、それ自体をスポーツとしてとらえても良いかなと考えています。なので、屋外で身体を動かすことを進める良い機会ではないかと思えます。スケートパークやゴールポストがある場所には、朝から並んでいる状況もあります。取り合いになるのも良くないですが、そういう場所を今後増やしても良いのかなと感じるところです。

周知することに課題があると思えます。ブラインドサッカーについて、あまり知らなかったのですが、元選手である指導者の方とお話する機会があり、そこから知ったという経過がありました。自分らが思っている以上に周知しないと、ほぼ伝わらないと思えます。例えば、スカイパークや競技場の常に目につくところに、目立つように周知すると浸透すると思えます。

また、スポーツにかかる年間費用について、月 3,000 円ということであれば、スポンサーがついて、何かしら提供できれば、これは面白いかもしれないと思えました。積極的に参加してもらう情報提供と場所づくりが大事だと思います。

(吉田勝光会長)

アンケートでも広報や新聞が多いです。この地域は、広報まつもとや市民タイムス等があり、地域の状況はかなり知ることができ、充実していると思います。ブラインドサッカーは何か取材はありましたか。

(青木雅晃委員)

市民タイムスや中日テレビも含めて、設立の時から来てくれました。

(吉田勝光会長)

私もいくつか新聞をとっていますが、市民タイムスがあることで、この地域の情報網はかなりしっかりしているかなと思います。先ほど、原委員がおっしゃった、友達が連れてくるのが一番集まるというのも分かります。

(原義美委員)

それは重々承知しております。若い世代の紙離れにより、情報を得るのが新聞等の紙媒体ではなく、SNSなどのインターネット媒体であり、紙媒体は1回発信したものが留まらず、流れてしまい、何回も見ることがないため、1回出した情報がそれきりになってしまう点が、紙媒体の弱点なのかなと思います。毎日同じことをSNSで上げ続けるとかしないと、1年前の情報はなかったことになってしまう時代であり、若い世代への情報発信が難しい気がします。

(吉田勝光会長)

本題に戻りまして、策定のスケジュールは、このくらいでよろしいでしょうか。

アンケートは令和2年度分であるため、新型コロナウイルスの影響を結構受けているということを危惧しており、その辺は考慮しないといけないと思います。今後、新型コロナについて、現在と同じような状況で続くのであれば、それを前提としてやらなければならない、全員がワクチンを打って、インフルエンザみたいな形に対応することができるような状況になれば、また違った計画の策定になるというふうに思っております。それを見据えながら、このスケジュールで、やっていくっていうことでよろしいかと思っております。

(安藤久治委員)

新型コロナウイルスによって大分、スポーツをする機会が少なくなり、計画通りになかなか進まず、ちょっとずつ遅れるという状況で、どのような対策をすれば、スポーツをして良いかというのを各種目で具体的に出していただければ良いと思います。卓球のダブルスはいけないが、バドミントンのダブルスは良いと聞きました。また、コロナがピークのときに、マレットゴルフ場はわんわんしていて、マスクも多少していましたが、誰もコロナにかからないのが不思議でした。進めていくには、種目別で具体的な対策を示していただければ、もう少し計画も、進んでいけるような気がします。それが市なのか、体育協会なのかは分かりませんがいかがでしょうか。

(吉田勝光会長)

各スポーツの状況を一番よく分かっているのは市ではなく、体育協会や各スポーツ団体ですから、自分たちのスポーツが途絶えるのを守るためにも、ある程度の対策をとってあげれば良いと思います。また、サポートとして、行政側から多少補助金を出すとかは、考えられなくはないと思います。

(笠井幸司委員)

スポーツ少年団に関しましては今年1年間で、競技はほとんど中止にしました。松本市から出るレベルに従って、練習や試合の可否を全団体に通知しました。サッカーなどの屋外競技に関しては、実施は可能だが、決まりをしっかりと守るよという内容の通知を何度か出しました。ですので、基本的には市の方針に従ってやりました。

(吉田勝光会長)

それで感染症は出ませんでしたか。

(笠井幸司委員)

出なかったです。公的な試合はほとんど中止になりました。例えばミニバスケットボールの試合は、普通は1会場で行いますが、午前と午後に分け、午前中の試合が終わったら、選手を全員外へ出して、空気を全部入れ替えて、消毒して、そして午後の試合をやりました。非常に手間はかかりましたけど、そのおかげで感染者は出ませんでした。

(吉田勝光会長)

一応議題はありますけども、何か全体として、ご意見等ありましたらお願いします。

(笠井幸司委員)

直接関係ないかもしれないですが、スポーツ少年団や松本市、体育協会も含めて、今問題になっている部活についてです。これは我々の場合だと今まで中学校の部活というのは、教育の一環であると思っていました。最近はそのが違うという話もありまして、その部活活動は、令和5年ぐらいにスタートできるように、地域スポーツに移行するという話になっています。そういう場合でいろいろと問題も出てきますし、また、地域スポーツの方へ移行するのであれば、我々スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブとかにも聞こえてくるだろうし、県の中には、スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブとは融合していこうという話も出ています。いろいろ問題が多い中、実現するために、スポーツ少年団と、総合型地域スポーツクラブの方々と相談したりする機会も増えると思います。その辺で市のスポーツ推進課はどのように考えているのか、どこまで進んでいるのかを市にお聞きしたいです。

(公保課長補佐)

それでは市としての現状ということでお話しします。この部活に関しては、文部科学省から出てきた教員の働き方改革の問題が元で、教育委員会が問題提起をしているところです。そこに、我々スポーツ推進課も入りまして学校の先生や、教育委員会の方と、年に何回かお話はさせていただいておりますが、思うように動かないというのが現状です。文科省からの指示に一貫性がなく、平日は学校で見て、休日は地域で見るという内容で、実際そんなことは不可能だと思います。もし、学校で見ないなら平日も見ないとしないと、結局その中途半端な状態が続いてしまうのが現状だと思っています。令和5年から順次移行という方針が出ていますが、非常に難しい問題があります。小さい町村ですと、わりと総合型地域スポーツクラブみたいなもの一つあれば、まとまるという流れができると思いますが、松本市のように、面積が広い市町村は、地域ごとですと人材確保や予算的な面等いろいろ考えると、すごく難しいと思います。例えば、旧波田町ですと、小学校も中学校も一つしかなく、まとまりがある地域だと上手く行く可能性はあると思います。

今後ですが、先ほどお話いただいた通り総合型地域スポーツクラブというものが、松本にも今いくつかありますが、その方々やスポーツ少年団の方々、それを取り仕切る松本市スポーツ協会が中心となり、

その中でもスポーツ協会が先頭に立って進めていくという流れが、一番連携が良いと思います。スポーツ推進課としての意見ではないですが、市は、補助金や負担金を出すという形が繋がりが良いと、個人的にはそのように思っています。また、現場の学校の先生たちも頭を抱えているというのが現状です。

(笠井幸司委員)

地域スポーツに移行する問題に関しては、相当いろいろ問題があると思います。完全にやるためには、資金的な問題や指導者の問題、組織が動かなきゃいけない問題など、そういったものを一つ一つ、潰していかないと、求められている形にはならないと思います。どこの組織が、リーダーシップをとっていいのかかわからないですが、松本市スポーツ協会がやっていくのが良いのでしょうか。一番大事なのは、具体的に進めていく組織がどこなのかだと思います。

(中原信一副会長)

中学校の部活では、専門種目の先生が部活を指導しないというのが多いです。生徒からすれば、専門の先生に教えてもらいたいという希望はあると思います。バレーとか、サッカーとか、陸上もですけど、プロとか指導の資格を持った人や先生(以下、「指導者」)が、部活動を指導するというのを、現在、スポーツ協会で採り上げ始めています。働き方改革で、学校と完全に離れてやらなきゃいけないということで、非常に難しい考え方になっています。指導者がいる学校といない学校では、レベルが全然違ってしまい、格差が出てしまうと思います。学校側からすれば、何とか部活動を活発化させたいという意向もあると思いますが、働き方改革で、文部科学省からは地域へ移行という指示があり、板挟みになっています。最終的には、お金の問題も関わってくるでしょうし、採り上げるには、非常に難しい課題だと思います。スポーツ協会ではできるだけ、ある程度の指導者という肩書きをもった方々が部活を教え、地域で学校を応援するという形になっていくと考えています。

(笠井幸司委員)

高綱中学校のサッカー部に関しては、指導される先生がいないので、私のチームの指導者1人が、数年前から、報酬は無しで完全ボランティアでこの部活を見守っていますが、そういう組織になればそれも良いと思います。全部地域に落とすと言っても大きな問題がいっぱいあります。

(安藤久治委員)

その件で、スポーツ推進委員が各地区2名います。私も、中学校の部活の、職名で副会長をやっていますが、どういうふうに地域と絡んでいくかというのも、これから研究しながら、いろんな団体と、意見を集約しながら、できる中学とできない中学があると思いますので、それも含めながら進めていますので、また報告させていただきます。

(大池俊嗣委員)

私は総合型地域スポーツクラブの方へ、関わっておりまして、丸の内中学を活動の拠点にしてやっています。中学の部活と一部タイアップして、種目によっては私どもの方から、指導者を出して部活動に入るということをやっています。全種目の人材を抱えているわけではないので、全部の指導に入るということができず、非常にこの問題は難しいと思います。ですが、どこかで音頭を取っていかないと、はっきりしないまま進んでしまうと思います。本当は総合型地域スポーツクラブが全種目の受け皿になれば良いとは思いますが。総合型地域スポーツクラブが受け皿となって、指導者を出してやっている一部の部活は、非常に上手くいっています。ただ、いろんな種目になった時に、指導ができるかということが問題だと思います。学校側からすると、教育の一環でやっていることで、本当は指導員の資格とか、そ

それぞれの種目の資格を持った方がいるとか、そういうものが条件になるとかがないと、子供たちを指導するのに、その種目が好きということだけで指導して良いのかなど、いろんな問題が出てきます。学校側ではまた違う考え方が出てくると思います。

(吉田勝光会長)

とても難しい問題ですので、まだ議論が続きそうですが、とりあえずここで終わりにしたいと思いたすがいかがでしょうか。

非常に難しい問題です。私個人としては、教員に相当するような人材を、ボランティアではなく有償で土曜日と日曜日に充てるという考えがあります。教員の働き方として考えるのであれば、その人たちの働き方っていうのを考え、当然副業ということになります。自分で好きで手を挙げてやることかもしれませんが、それなりの対価や報酬が無いと割に合わないと考えており、継続性はないと思います。経験からすると、私やります、で終わってしまい、そこまでボランティアでは期待できないのかと思います。そういう点からも、非常に難しい問題だと思いたす。

それでは一応区切りがつきましたので、これをもちまして議事を終了したいと思いたす。皆様のご協力で進めることができました。ありがとうございました。これで議長の任を解かせていただきたすと思いたす。

(山本課長補佐)

吉田会長はじめ、委員の皆様、身長なご審議、大変ありがとうございました。
その他ということですが、皆様から何かございますでしょうか。

(吉田勝光会長)

おそらく今の問題が大きいと思いたす。

(山本課長補佐)

特になようですので、以上をもちまして、令和2年度松本市スポーツ推進審議会を閉会といたす。

ありがとうございました。